# 第３回　河内長野市学校教育のあり方検討委員会　会議録

令和７年１２月２３日（火）午後７時００分から午後８時５０分

市役所５階５０１会議室

１．開会

２．前回のふりかえり

３．小学校のあり方

・小規模化のメリットを最大限に活かした教育

４．閉会

## １．開会

河内長野市学校教育のあり方検討委員会を始めます。

## ２．前回のふりかえり

**水本会長**

それでは、予定しておりました議題に入ります。次第の２．前回のふりかえりを行いたいと思います。事務局から説明お願いします。

○資料１・参考資料１について事務局（山崎教育総務課長、篠﨑学校教育課長）より説明

## ３．小学校のあり方

**水本会長**

ただいま事務局から前回の会議の説明がございました。説明の内容につきまして、ご質問等あればお願いします。

**森委員**

学習指導要領の改訂については関心を持っており、私も本検討委員会とは別で資料を読んでいます。学習指導要領の基盤になる考え方としては、論点整理の５ページ、資料の１７ページになるのですが、次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方が３つあります。一つ目に深い学びの実装、二つ目に多様性の包摂、三つ目に実現可能性の確保が挙げられています。本検討委員会では多様性の包摂がすごく関わってくると思っています。なぜなら、論点整理の２８ページ、資料の４０ページの多様性という意味で言うと子どもたちのさまざまな課題や、学校に通学しにくい子どもたちが、まずは通学ができ、個々のペースで学ぶことができる教育支援ルームを作っていただいています。市としても今後教育支援ルームを広めていくということをお聞きしています。千代田から三日市幼稚園跡地に移転しました「ゆう☆ゆうスペース」（学びの多様化教室）もあります。私が校長に就任したときに通級指導教室を増やしてほしいとお願いしていたのですが、現在全校に通級指導教室が設置されています。これは、非常にありがたいことで、子どもたちに手厚い支援が

できるようになってきています。学校規模と関わるのですが、学校が小規模化しても、学校を大事にしていただいているかと思います。

**上田委員**

中学校の現場からすると、実は東中学校は結構早い段階から通級指導教室があり、需要は多いです。昔でいうハートフルという別室登校の生徒も複数名おり、休むこともありますが、教室に行けるように教育支援ルームでも勉強しています。大阪府でも大阪府教育センター附属高校の分校として学びの多様化学校を作っているという現状もあります。さまざまな生徒が集まって学校が成り立っていますので、そういうニーズに応えることは必要かと思います。実際に今日も別室登校の生徒と話していたのですが、その間もパソコンを使って先生から課題等が送られてきて、それをこなしていました。ＩＣＴを使ってさまざまな学習方法ができる環境が整ってきています。そういう意味では、個別でも勉強が進めることができます。その生徒は今のところは教室で他の生徒と一緒に授業をうけることは難しいのですが、ＩＣＴを活用し、遠隔で話し合い活動等に参加できれば、自分の考えを述べることもできますし、他の人の意見を聞くことにより深い学び、自分の視野が広がるような勉強もできます。さまざまな人の話が聞けるから、ＩＣＴの活用により少人数のデメリットをカバーできる勉強のパターン、授業のパターンができるかと思います。

**水本会長**

ありがとうございます。お二人の委員のご発言の中で、学校の中でいろんな支援を要する子どもたちがいるということは今に始まったことではなく、以前から、そのような課題が叫ばれています。小学校であれば担任１人が、或いは中学校であれば教科担任制ですけれども、1 人が授業を担当するという中でさまざまな支援が必要な子どもたちすべてに適切に対応できるかというと、なかなか難しい部分があると思います。そういう中で人材も必要になりますし、教室に入りにくい子どもがいましたら、昔は校内適応指導教室という言葉を使っていましたが、空いている部屋を利用して、空いている先生がそこで対応するということをやっていました。これを教育支援ルームという形で制度として構築していこうと見直されてきています。上田委員から発言のあった学びの多様化学校、これは聞きなれない言葉だと思いま

す。平成１７年から不登校特例校という呼び方で文部科学大臣が認めた特別なカリキュラムを組める形で実施してきたのですが、不登校特例校という名称が好ましくないということで令和５年から呼び方が学びの多様化学校に変わりました。令和７年度で全国で５８校設置されています。大阪では先ほど上田委員から挙げていただいた大阪府教育センター付属高等学校は、昔の府立大和川高校になるのですが、令和８年度から開設される予定になっています。名称は窓明(そうめい)分校ということで、窓が明るくなる分校という呼び方です。ほかに令和６年に大阪市の中学校で心和中学校。私立の高校では堺市にある精華高等学校がフリーアカデミーコースを作っており、学校全体でなくコースを作っている例もあります。そういう例も含めて全国で５８校あります。文部科学省はこれを COCOLO プランという不登校支援のプロジェクトとして、将来的には全国３００校に増やしたいという構想を持っています。まだ５８校ですが、多様な学びを保障していくという動きがあります。我々が検討している河内長野市の学校教育のあり方とリンクできるような部分もあれば、皆さんで考えていければと思っています。耳慣れない言葉も出ましたので説明させていただきました。

他にご意見ございませんか。なければ本日の検討内容の本題で、次第の３に入らせていただきます。小学校のあり方ということで、小規模化のメリットを最大限に活かした教育について、事務局から説明をお願いします。

〇資料２について事務局（篠﨑学校教育課長）より説明

**水本会長**

ありがとうございます。全国の小中学校の小規模化の状況を踏まえて、さまざまな取組みがなされているという事例の説明がありました。小規模化のメリットを最大に活かした教育について委員の皆さんからご意見をいただければと思います。どうでしょうか。

**東委員**

資料にでています小規模特認校について考えました。天見小学校と地域の結びつきについてですが、少人数での教育で地域との繋がりとして、現在、縦割り班及び

単学級での事業を行っています。学校運営協議会や地域の協働として、少人数ならではの体験活動、地域連携に力を入れています。前回お話させていただいた、てくてくテーリング、お米づくり、花植え、オープンスクール、もちつきの実施等サイクルができていますが､それ以外にもできることは限られてくるかもしれませんが、地域の特性を活かした取組みができればと思います。天見地域の子どもの減少で学校以外では、子どもの遊んでいる姿が減っている中で、市内から通ってくれている児童たちと小学校での行事等で少人数だからこそできる子どもと大人の世代間交流ができるメリットがあると思います。

今後、少子高齢化が進み、地域との連携が難しくなる可能性もありますが、市民でどれだけの方が天見小学校が小規模特認校に認定されていることを認知されているかわかりません。毎年、市広報紙と河内長野市子どもセンターのキッズアイの子ども向け情報誌やホームページで児童の募集をしてもらっています。私もその中のメンバーのひとりです。ある程度は周知してもらっているとは思いますが、若い子育て世代にはまだまだ認知されていないような気がしています。小学校のホームページを閲覧してもらったらわかるかもしれませんが、小規模特認校の学校の取組みをもっと知ってもらう手段を、今後、学校と自治会が連携しながら、天見マップでの広報活動以外にも周知活動ができればと思います。数年前には天見マップを見たり、学校のホームページを見た方で、市外からの問い合わせもあり、河内長野市内に移住し天見小に通わせている家庭もあると聞いていますので、地域からの広報活動の必要性を感じています。その中で、天見小学校で実施しているにぎわいフェスタについては、約４００人以上の参加があり、特に出演者の方でダンススタジオの園児・児童たちと保護者約２００名以上の参加がありました。この事業は世代間交流の場であり、また、地域の活性化や天見小学校のアピールにも繋がるため、継続していく必要性があると思います。地域としてももっと広報していく必要があると考えています。

**水本会長**

ありがとうございます。東委員から、小規模特認校の天見小学校への関わりに学校と地域コミュニティの結びつき、特に小学校がその地域の核になっている事例について、よい取組みだからもっと市内外に広く広報して知っていただく必要がある

というご意見でした。当然市内でさまざまな形で広報されていると思うのですが、今以上に知っていただく中で、同じような取組みをできる部分は、他の学校でも取り入れていただくことが必要だと思います。

**生田理事**

東委員の発言を非常に大切なことだと思いながらお聞きしていました。実はさきほど説明いたしました学校教育課篠崎課長は、昨年に天見小学校の現校長の杉田校長先生と前教頭の岩崎教頭と一緒に南海電鉄が河内長野市を紹介するＹｏｕＴｕｂｅ「まちの参観日」に出演して、天見小学校の紹介をさせていただきました。また、例年児童募集の時期になると、天見小学校がオープンスクールをしていますし、これまでは市内の駅にポスターを貼っていたのですが、今年から市内外問わず知ってもらおうと思い、南海高野線の金剛駅と中百舌鳥駅と堺東駅に貼らせていただきました。そうしますと、堺にお住まいの方から天見小学校に問い合わせがあったと杉田校長から報告がありました。東委員のご意見をお聞きしていまして学校の取組みや児童の募集状況を周知することの必要性を改めて確認することができました。

**水本会長**

よくテレビの番組でも都市部から田舎へ移住した人達を取材した番組が放送されています。ですから、天見地域だけではなく、河内長野全体がそういう魅力溢れる地域になって、山村留学だけじゃなく移住という形で家族ぐるみで来ていただいて地域活動に参加していただけると、この上ないことかと思います。

**中谷委員**

資料の７ページに８例記載されていますが、この上段左から２つ目の学校間合同授業はよいのではないかと思いました。他校の児童生徒と顔を合わせて授業するのは刺激があってよいかと思います。移動の方法には懸念があるのですが、河内長野市はマイクロバスを一台持っているので、それを利用したらいいのではないかと考えていました。

**水本会長**

学校が小規模化したときにこの取組みは興味深いと思います。私見ですが、こういう取組みは、トップダウンではなく、学校の先生方が学校の児童生徒たちの現状を考えて、先生方から声が出てきたら子どもたちの学校での学びがさらに深まるのではないかと思います。教育委員会にはバスの台数を増やす等がんばってもらいたいと思います。

**森委員**

中谷委員が発言されて思い出していたのですが、高向小学校に勤務していた時期に、天野小学校と高向小学校が一緒に遠足に行くことは実施していました。また、加賀田小学校に勤務していた頃、石仏小学校の児童が加賀田小学校近くの公民館に見学に来た時に、一緒に給食を食べて、英語の授業の交流をしたこともありました。コロナ禍の時期に縮小することになったのですが、合同で授業しましょうという芽はあたたまっていたと思います。中学校の体育館で中学校の先生も立ち会って、同じ中学校区の小学校の５・６年生で合同でドッジボール大会をして、中学校に上がるまでにさまざまな場所で交流したこともありました。合同授業を行い、中学校に入学前に顔を合わせているほうが、スムーズに中学生活に入れると思います。上田委員がおっしゃっていましたＩＣＴで学校間を繋いで、まずは顔合わせをします。同じ場所に遠足に行くということは両校の担任で打ち合わせもするので、担任としても学校は違うのですが、同じ校区の子どもたちを育てるという目線をもつことができます。６月に６年生が奈良に遠足に行ったのですが、その後にも英語の遠隔授業をしました。中学校の英語の先生と小学校の英語の授業担当がオンラインでコミュニケーションをとっています。小学校の先生は中学校へ上がった子どもたちのことを知っているので、アドバイスをもらうことや中学１年生から小学６年生がアドバイスもらうということも実施していました。小小間の連携だけではなく、小中間の連携もＩＣＴを使って実施していました。学級数が少なかったり児童数が少なかったりすると、小回りが利き、動きやすいというメリットはあると思います。

**上田委員**

高向小学校と天野小学校から上がってくる西中学校に以前勤務していました。通常、中学校としては小学生の活動の場面を見る機会がほとんどありません。西中学

校で小学生が交流する企画をしていたことは、我々としても、中学校にくる子どもたちを知れることはありがたい機会だったと思います。小規模の学校で施設に余裕があることもあり、我々中学校の教員も見ることができるということは、生徒理解が進む要因だったと思います。ただ移動は大変だったと思います。天野小学校は西中学校の隣ですが、高向小学校は移動で一時間程度かかったのではないかと思います。

**森委員**

移動については知恵を絞って工夫していました。昼休みから移動して、給食を西中学校で取らせていただいて、交流して、帰りは要所々々で解散するという下校方法にしていました。実際に移動して合同で授業することもありますが、英語等の授業だけで移動は難しいため、学習内容によってはＩＣＴを使用して合同で英語の授業をしたこともありました。

**水本会長**

移動が伴うことになると、その時間のロスと安全確保をクリアすることが難しい場合もあると思います。しかし、ＩＣＴを活用した場合、それぞれの学校にいたままで学校間の交流ができます。コロナ禍でＧＩＧＡスクール構想も前倒しで進みました。どの学校にもＩＣＴ機器が導入されていますから、子どもたちの多くの集団の形成という意味では、少人数同士で５人と５人でも集まれば１０人になる。１０人と１０人が集まれば２０人になります。ＩＣＴ機器を活用した遠隔授業は非常に有効です。

**森委員**

また河内長野市ではベストブックバトルといいましてオンラインで中学校区を越えて３校ぐらい集まって読書のおすすめ本を紹介しています。

今年は小山田小学校は高向小学校と長野小学校と３校で実施しました。先生方もＩＣＴ機器を使ってやり取りすることに慣れてきまして、トラブルなく進めることができるようになったという実感があります。

**上田委員**

中学校ですが、大阪南医療センターの医師や看護師さんが講師になっていただいて、オンラインでがん教育の授業をしていただいています。そういう意味でも知識や興味の幅は広がると思います。

**森委員**

オンラインでの打合せ等に抵抗があるというのは減ってきています。顔を合わせてないから学びが上達しないということではなく、オンラインだからこそ、さまざまな方に出会えるという考えが増えているように思います。

**水本会長**

数年前のコロナ禍で、一般社会もオンラインで会議や講演会を聴くということ、或いは、大学でもオンラインで授業を実施することが普通になってきました。だから、今までは顔と顔を合わせてという形でなければと思っていましたが、画面を通じて顔と顔を合わせるということが、普通に感じるようになってきたと思います。子どもたちの方が特に違和感がないかもしれません。

**篠崎課長**

皆様にご議論いただいている取組みについてですが、合同で授業することや、オンラインを使って遠隔の授業をすることを市全体で取り組んでいる市がありますので紹介させていただきます。資料の１２７ページ、Ａ３の資料で岐阜県山県市の教育ビジョンの資料を載せています。この表の裏面をご覧ください。山県学園構想ということで、たくさんの学校名が載っています。それぞれ規模的には大きくない学校が市内にたくさんありまして、このすべての学校を１つの学園とみなして、教育を進めていこうという取組みをされています。山県市は学校の統廃合をせずに、小規模校のメリットを活かした教育を実施しています。先ほどおっしゃったバスを駆使し合同で授業することで、子どもたちは小規模のきめ細やかさもあるし、合同授業をすることで多人数での学びもできるということに取り組んでいます。山県学園構想の図にあります「教育課程の学校間連携」とは学校間で連携して教育を同じペースで進んでいきましょうということ、「やまがた実体験学」とは先ほど東委員がお

っしゃったような小規模のメリットを活かし地域の方と協力しながら、実際に体験する活動、オンラインもいいのですが、やっぱり実体験も大事だよということ、協働学習とオンラインの「協働学習」とは、実際リアルに子どもたちで実体験するだけじゃなくて、ＩＣＴを駆使して、遠隔でもさまざまな組み合わせで授業しましょうということ、「合同授業」は、実際に面と向かって合同で授業をするということになります。今、皆様が議論された話題が全部ここに盛り込んでいるのが、この山県学園構想です。統廃合はせず、現行の教員数は維持して、さまざまな工夫を凝らして大きい集団の学習も少人数の学習も実現するということに取り組んでいるところが、まさしく今議論されたことになるとと思いまして、紹介させていただきました。

先ほど水本会長がお話されたように、ある学年で１０人在籍している学校と１０人在籍している学校が統廃合したら２０人になるのですが、学級数としては１学級になります。そうなりますと、担任の先生は１人になります。１０人の学校と１０人の学校を統廃合せず残すと担任の先生がそれぞれ１人配置されます。１０人の学校と１０人の学校が合同授業をしますと、２人の先生が２０人を授業することができます。西中学校区で実施していたように場所を中学校で実施することによって中学校の先生もかかわって合同で授業できることになります。

本市にもマイクロバスがありますので、移動にかんしてもサポートできるかと思っています。

**水本会長**

合同事業を実施しようと思いますとマイクロバスが必要になると思います。１台で足りなかったら予算措置の必要があります。教育委員会にもがんばってもらわないといけません。

小規模化のメリットを最大限に活かした教育ということで、皆様ご意見ございませんでしょうか。

**上田委員**

授業という面では、小規模化のメリットを活かすということでＩＣＴ機器を利用することや、合同授業がでてきますが、中学校の場合は、部活動も今後問題になってきます。実際に西中学校に勤務していた頃は場所はあるのですが、指導者が不足

するという問題があり、部活動の数は増やせませんでした。また、生徒数も減少傾向にありますので、サッカーや野球という団体競技はこれから人数が不足するため競技が成立しなくなってくるかと思い、今後どうするかということで悩んでいました。これは現在の勤務先である東中学校でも同じ話題になります。現在、東中学校は生徒数約４５０人で１２学級あるのですが、資料２にあるように標準規模を下回る学校が増えてきています。東中学校も例外でないとなったときに、今の部活動の規模を維持することは厳しくなる時がくるかと思っています。今、部活動の地域展開が協議されていますから市のスポーツクラブや、もちろん、市役所全体で協力して進めていくことがでてきます。西中学校でも、ある部活動をやりたいけども、学校にないから入れないということもありました。加賀田中学校も同じような傾向にあったかと思います。そのときにお願いすることになるのが地域になるかと思っています。運営協議会や青少年健全育成会から知恵を借りながら部活動を運営していく必要があると思っています。そうすることによって部活動だけではなく、小規模化した学校の魅力を活かすことにつながるのではないかと思います。

**水本会長**

中学校での部活動をどのように支えていくかという意見がでましたが、ほかにどうでしょうか。

**東委員**

小学校では今現在クラブ活動はあるのですか。担任の先生が指導するのですか。中学校と傾向は同じですか。

**森委員**

小学校では授業の中でクラブ活動を行いますので中学校の部活動とは異なる部分があると思います。

**水本会長**

中学校の放課後の部活動と小学校の部活動は体制が異なっているかと思います。中学校の部活動についても、小規模化の中で、合同で部活動を実施することがあり

ます。A 校には野球部があって、B 校にはサッカー部がある。野球をやりたいA校とB校の子がA校に集まって野球をする、サッカーをやりたいA校とB校の子がB校に集まってサッカーをするという合同部活動ということもかなり実施されてきています。また、中学校体育連盟でも、合同チームの大会参加も認めていますので、これまでのように試合に参加できないということもないので、合同部活動というのも広がってくるようになっています。ただし、指導者として地域の方たちの支援が必要になってくることがあります。今後の流れとして部活動の地域展開ということで、中学校の部活動という形ではなく、地域での部活動に変わります。兵庫県は来年度で中学校の部活動はなくなり、地域の部活動に変わるようです。国は令和１３年を目途に全国的に部活動の地域展開に舵を切っています。大阪はその取組みの端緒についており、河内長野市も部活動の地域展開に取り組んでいます。都市部であれば、企業が参加するということもあるようですが、全国的に見れば企業が参入してということは少ないのかと思います。やはり地域の力に頼っていかざるをえないところがあります。

私は大学の関係で学校へ回らせていただいたときに、学級担任制ではなく、チーム担任制や学年担任制という大胆な担任制をしている学校を一昨年頃から聞くようになってきました。

ＰＴＡの保護者の立場から、今までの担任制からチーム担任制に変わればどうでしょうか。違和感があるかと思いますがどう思われますか。

**米谷委員**

現在は担任の先生が決まっていますが、チーム担任制では誰に相談したらいいのか迷うことはあると思います。

**井之上委員**

確かに相談してその件については別の先生に聞いてくださいという話になると困惑すると思います。

**水本会長**

そうですね、それはこういうチーム担任制という言葉だけで聞いたら、そんなふ

うに思いますけど実際のところどうなのでしょう。

**森委員**

似たような形を探ってきたことはあります。担任１人が抱え込むということは今の時代にはそぐわないですし、高向小学校は小規模校で複数の担任が児童を見るということを実践していました。よくあるのは規模が大きければ同じ学年の中で教科担任制を取り入れるということ。学年内で家庭科と体育をお互い担任同士が持ち合う、中学年では理科と社会を持ち合うという例はあります。小規模になり単学級になるとどういうことを考えるかというと、学年を超えて教科担任制ということになります。高向小学校は特に小さいので、生徒指導担当が学年担任も兼ねることになります。そうしますと、６年生の担任であっても１年生の子どもの顔も知っておきたいとなるため、学校全体で児童を見ているというところが強みになります。小学校の教員にも教科でその強みを持っているものがあります。私も国語科を専門にしており、担任としてだけでなく、教員としての強みを活かすこともできます。高向小学校ではこのようにチームでその学年を見るということをやっていました。それが規模の小さい単学級のメリットだと感じています。例えば高向小学校のときは、体育の授業は運動会のシーズンになると合同体育でした。１・２年生、３・４年生、５・６年生で一緒に体育の授業をしています。それだったら、体育のカリキュラムを全部見直して、年間通じて学年合同体育という形をとったら子どもたちを複数の目で見ることができるし､カリキュラムをきちんと整えてさえいれば人数も増えて、いろんな球技等充実させてあげられる。少ない人数でやって、すぐゲーム終わってしまうのが、人数が増えることでゲームが続いて盛り上がります。小山田小学校に異動になってもそういうことしたいと思ったのですが、それをするには規模がまだ大きいということを感じました。

もう少し小規模になればいろいろな教員が入って子どもたちを見る。また、学校は今１人で抱え込まないことに特に力を入れていますので、そういう意味でもよい方向性だと思います。子どもの様子を共有しますので、ご心配いただくようなこともチームで対応しますので、いい面になると思います。集団による指導体制の工夫で、今後実施できたらおもしろそうな案がたくさんでているのですが、実際やってみたら子どもにとってもプラスだというところはあると思います。

**井之上委員**

おそらく先生と子どもの相性があるでしょうし、チーム担任制だったら相性の合う先生と出会いやすいこともあるでしょうし、いろいろな先生とコミュニケーションをとることによって、人生の幅が広がるということもあるかもしれません。慣れるまでは戸惑う部分もあるかと思いますが、慣れればメリットもでてくるのかと思います。

**森委員**

あとは、高学年では男性の先生、女性の先生ということで相談しやすいということはあります。そういう意味でも複数の教員で児童を見るという動きは非常に重要かと思います。

**水本会長**

中学校は昔から教科担任制で学級担任としては１人という体制でしたが、小学校も教科担任制を取り入れる学校が増えています。学年担任というよりも、まず教科担任制への移行が増えている印象です。

**森委員**

学校生活面でも教員の中から低学年・中学年・高学年で朝の会をしようということや、集会を開こうという意見がでました。鬼滅の刃が流行った時期に、柱という登場人物がいまして、それをなぞらえて中学年の柱の会議を柱中（ちゅうちゅう）会議と名付けて、3・4年生の先生同士が、集団の中で自分たちの楽しめる活動や、お互いに教え合う活動を学期ごとに開くということは教員の中からでてきました。

しかし、国の考える適正規模はあるかと思いますが、規模が小さくなりすぎると、メリットがメリットではなくなるということはあると思います。

**生田理事**

前回の会議で会長からご発言がありましたが、現在、国で適正規模について議論されています。令和の日本型学校教育を推進する学校の適正規模・適正配置のあり方に関する調査研究協力者会議が令和７年に開催されています。最新で言いますと

１２月１日に第７回会議が実施され、議論が煮詰まってきているようで、議論のまとめ骨子案が公表されていました。今後、骨子の中におそらく入ってくるだろうという項目が掲載されてあるものもあるので、ご紹介させていただきます。

統廃合ということでも当然議論があるのですが、実は、小規模校を存続の場合に考慮すべき事項が議論されています。現在、ご議論いただいたことと一致してくるのですが、小規模校を存続させる場合は、「地域と一体になった教育の質向上の工夫」、それから、今ご議論いただいたようなことが関わるのですが、「教職員の学びの確保」。森委員から担任が孤立化するといったご発言がありましたが、今、教員が力をつけて、さまざまな発想が出ています。まさにその部分をしっかり考えることとされています。或いは、「校務分掌が集中することにより教職員の負担増加」することにより学校運営に負の部分が出てきます。そこにはしっかり対応するよう記載されています。この辺りのことが小規模校を存続させるという場合に考慮すべき事項ということを国では議論されています。

**水本会長**

ありがとうございます。いろいろ意見も出していただきましたけど、ほかにご意見ないでしょうか。

**井之上委員**

今回の会議で、学校ごとに先生方もすごくいろいろ工夫してくださったり、地域の方もこうしたら学校がよくなるんじゃないかとか、教育委員会の方も考えてくれているということを知ることができて、すごくよかったと思います。

三日市小学校で先日、小学校３年生の子どもが、遠隔授業でパナソニックの方から電池を作るという授業を受けてきました。子どもは楽しかったようで、いつもだったら全然教えてくれないのに、学校から帰ったらこんなことをしたということを詳しく教えてくれたことがありました。本当の現場の方から生の声を聞くことができたことは、児童数の多寡にかかわらず子どもたちにとってはすごく刺激になったかと思いますし、すごくいい授業だと思いました。

このように、この会議の場でいろいろ議論して、今日は統廃合しなくても学校を存続するという形もあることを知れてすごく勉強になったと思いました。もし、ゆ

くゆくは統廃合になった時に、保護者や子どもたちはきっとここの小学校に行くと思っていたのが、統廃合になって遠くの学校に通学するとなったときにすごく戸惑うと思うので、その時は情報提供が必要だと思います。これだけいろいろ話し合ったということや、あとは、遠くなるけどこういうふうにサポートしていきますということを、統廃合しますということだけではなく、そこに至った経緯や、こういうフォローしますという情報を併せて教えていただけると、戸惑いが少ないのかと思いました。

合同授業の話を聞いていて、授業も楽しそうだし、運動会とか市内の６年生だけで合同運動会みたいなことができれば、ちょっとお祭りじゃないですけど、何か楽しみな部分もあったりして、小規模校の運動会とはまた違った雰囲気が味わえるということも楽しそうなのか思いました。

**水本会長**

ありがとうございます。小規模化したから統廃合をすぐしましょうということではなく、現状でどのように子どもたちの育ちを確保していくことができるかというのをしっかり考えた上で教育していくことは非常に大事です。全国的にもさまざまな取組みを実施されていますが、河内長野市でもさまざまな取組みをしているということがよくわかりました。

**森委員**

学習指導要領の論点整理の資料ですが、私も別のときに読む機会がありましたので、もう１つ気になっていたことは、さきほど上田委員もおっしゃったように、地域の方との協力関係は河内長野市の強みであると思っています。高向小学校に勤務していたときも学校運営協議会の方や見守り隊の方から協力の申し出がありました。高向では「高向ほたる米」といって、厳しい基準をいくつもクリアしないと販売できないブランド米を作っています。農業をどう守っていくかということで１０人位のメンバーの方が、次世代が育たないことをすごく悩みに思われて、是非とも子どもたちに農業のことを教えていきたいということで、私が高向小学校におりました最後の年に学校と地域とで相談して５年生に総合の授業でやりかけたことがありました。

今後の子どもたちのイメージって探求的な総合の活動の中で力をつけていくというあたりでいうと、資料の３０ページになるのですが、「学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ」について、今後どう子どもたちが人間性を高めてくかということで、三角形の真ん中に、「学びの主体的な調整」があります。本当に学校としては、非常に難しいと思うところですが、一人一人が自分の学びに対して適切なアプローチを選択的に選んで作り上げていくことになります。先生はさまざまな選択肢が整うような環境づくりや、一人一人どういう方向性で見ているかということを１時間だけで終わらずに帯で総合の時間をトータルコーディネートすることになります。そうなりますと小山田小学校１年生は３５人います。１クラス３５人いますと、なかなか一人一人の学習の進度を子どもはそれぞれ選択し、なおかつ、タブレットの中からさまざまな資料を選ぶということを、どのように差配するのかなかなか難しい。そこもやっぱり、人数的に小規模で、なおかつ、チーム担任制であると教員の数も有効に使えることになりますので今後のイメージとも合致するのではないかと感じています。

**上田委員**

地域の人がよいことも悪いことも見てくれているという実感はあります。この間も中学生がこういうことをしてくれたといって喜んで話をしに来られた方がいらっしゃいました。多くの目で見ていただいているということは生徒も意識するのではないかと思います。それが、気持ちの面での成長に繋がると思います。美加の台中学校でも実施されているかと思うのですが、東中学校でも３年生は学校運営協議会の方から面接の練習をしてもらっています。また、学校周辺の環境整備も手伝っていただいています。西中学校に勤務していたときも年に１回小学生と中学生が集まって校区のオリエンテーリングでごみ拾いをしています。そこで児童生徒や先生でもワイワイやっていますので、地域の方に小中学校を繋いでもらっているようになっています。さきほど小学校は教科担任でないから、中学校は教科担任だからいろいろな目で見れるという話がありましたが、もう一段広い目で見ていけるから、きめ細やかな生徒対応もできるのではないかと思います。それが小規模校であれば特に人間関係も強いでしょうからきめ細やかなサポートが期待できると思っています。

**水本会長**

中谷委員どうですか。美加の台の学校運営協議会会長やっていただいて。

**中谷委員**

前回の会議でもちょっとお話ししたのですが、この間、小学校４年生で都道府県を調べ、地域の人にレクチャーするということをやりました。去年は３～４人のグループで説明したのですが、今年は４年生が確か５０人弱ぐらいの人数です。ということは１人１都道府県を担当するということで、皆偉いなあと思ったのですが、説明のうまい子も苦手な子も、よく調べて話を発表してくれていました。

中学校ですが、１１月２９日に市役所のまちづくり推進課が音頭をとって美加の台駅で、つながる駅マルシェというイベントを開催しました。美加の台中学校は石焼き芋を販売したのですが、駅なので火が使えない。そのため駅の近くに農家さんに場所を借り、焼き芋を焼いて駅に運びます。生徒が販売し、売り切れたら、また次の焼き芋を持って行くということをしていました。私も駅に見に行きましたら、売り子としては素晴らしい。良くやってくれて、小学生も中学生も良い子ばかりでこのまま育ってほしいと感じています。

**水本会長**

ありがとうございます。米谷委員、中学校のＰＴＡ会長の立場として、小規模化する中学校教育に保護者の立場でこういうものを求める、望むというのはありますか。

**米谷委員**

小規模校であれば、子どもたちの友達関係もしっかり見えますし、保護者同士も繋がりがありますし、親も含めて仲良くできることはメリットかと思います。しかし、小規模校だからこそ１つ歯車が狂いだすといじめにつながり、不登校につながってしまうことがあります。小規模校のためクラス替えもできず、人間関係が固定化してしまうことがあると思います。不登校になると学校の先生も熱心に対応してくださるし、その中でも信頼関係の築けている先生とコミュニケーションは重要だと思います。学校としてはもちろん子どもたちに学校に来てもらうようにすること

は当然かと思いますが、学校に行けなくても明るい未来はあるということを示すことも場合によっては必要だと思います。

**水本会長**

学校は小規模になってくれば人間関係が密にもなるのですが、一旦こじれたらなかなか修復しにくいことがあります。クラス替えがなかなかできにくい、もしくは、クラスを分けても、たくさんのクラスがあるわけでない中で、悩む子どもたちが多いと思います。そういう中で不登校というのは、まずは呼び方が問題かと思います。さきほど学びの多様化学校の話題がでましたが、学校へ行かないことが悪いことのようなとらえ方になってしまいます。人間関係を克服していく、また、コミュニケーション能力をつけていくことは必要ですが、それぞれの子どもの学びだから学びの形がいろいろあっていいわけで、学校へ行かないことが悪のようにとらえられること自体、社会全体で考え方を変えていかなければならないと思います。私自身も担任をしていたときに自分の教え子で全く学校へ通えない子どもがいたのですが、成人してから手紙をくれるようになりました。学校教育で関わることはほとんどなかったのですが、今、僕こんな仕事に就いて頑張っています、と連絡をくれたことがありました。あのとき心が繋がっていたのかな、と後で思ったことがあります。学校へ来て学ぶことありきだけでなく、どのように支えていくかということも大事かと思います。小規模化してくれば、悩む子どもたちも多くなるということはよく聞く話です。それをどの克服していくか。いろんな人と関わる機会を多くすることは大事なことだと思います。

ほかにご意見ないでしょうか。片山副会長どうですか。

**片山副会長**

今日の議題は、小学校の小規模化のメリットを最大限に活かした教育について議論するということで、以前からこの会議では子どもの数が減ったからといってただちに統廃合を考えるのは違うでしょうという内容の議論がありました。それを受けて、今回、小規模化のメリットについて議論をしました。今日の議論をお聞きしていますと、地域と一体となった学校づくりであることや、地域コミュニティの核となるような取組みは以前からお話があったところです。今日は合同授業という形で、

その時にもＩＣＴ機器を使用してスムーズになっているという発言がありました。チーム担任制や、或いは、学校全体で子どもを見るにはやはり小規模校がメリットであるだろうという意見や、また、まだ案段階ですが次期学習指導要領の中でも国が求めるような方向性に進むには、小規模校は一定必要ではないかという意見もありました。事務局からほかにも分校・山村留学・デュアルスクールなども説明がありました。最後、米谷委員がおっしゃっていたことですが、人間関係の固定化はデメリットになると思いますが、それをやはり学校の取組みで乗り越えていく必要があると思います。人間関係のこじれは、小規模校でもありますし、中規模校・大規模校でもあります。そこに先生がどう働きかけるか、集団にどのようにアプローチしていくかというところは、どこの学校においても取り組まなければならないと思います。国の方向性としても、地域と一体化や教職員の学びや負担をどうするかということを考えつつ小規模校を残していく方向性が出ているようです。１つのモデル資料として山県学園構想の説明がありました。ここは統廃合をしないという方向性を打ち出して非常にシステマティックに行われていると思います。山県市もさまざまなことを試行錯誤しながら、この段階までいったと思われます。しかし、これがそのまま河内長野市にあてはまるとは考えられないのですが、小規模化が進む中で学校教育の質を維持させながらどのようにやっていくか１つのモデルとして参考にできるかと思っています。

森委員の発言で、小規模化のメリットを活かした取組みを実施しても、小規模になりすぎるとメリットでなくなるというお話がありました。現段階では小規模のメリットを活かして、小規模であるがゆえにできるようなことも実施していく必要があります。しかし、さらに小規模化が進み、ほんの一握りの子どもになり、小規模化のメリットを活かせないほど子どもが減った段階の時に、河内長野市としてどうしていくのか考える必要があるのではないかと思います。

**水本会長**

ありがとうございました。委員の皆さんからは小学校の小規模化のメリットを活かして最大限に活かした教育ということで、多くのご意見をいただきました。その中で小学校は地域との結びつきが強く、地域に支えていただいて、また、地域の核であるという位置付けもあるということ。それから、小学生の通学に関して時間や

距離も含めて考えますと、安易に統廃合はできにくいと思います。それならば、ご意見いただいたような小規模化のメリットを活かして、学習面、生活指導面、学校運営面の課題を克服しながら、どのように学校教育を充実していくかということが必要であるというご意見をたくさんいただきました。今日の各委員からいただいた意見を、今回、本検討委員会の基本の方針として、答申の中に書き込みたいと思いますが、委員の皆さんよろしいでしょうか。

**各委員**

＜異議なし＞

先ほど、片山副会長から発言がありましたが、さまざまな取組みを実施しても、今後、更に小規模化が進んだ場合、小規模化のメリットを活かした教育にも限界がくるかと思います。現行の河内長野市学校のあり方の方針の４ページに教育水準の維持ができなくなった場合は、統廃合についても検討すると記載されています。私も、そのことについては片山副会長と同意見で、いずれ在籍児童の数が限界に来ることがあると思います。そのときにどうするのかということも、この検討委員会で検討し一定の基準について考え、答申に書いておく必要があると思います。それについても次回、検討したいと思うのですが、委員の皆さんもよろしいでしょうか。

**各委員**

＜異議なし＞

それでは、事務局で資料作成をよろしくお願いいたします。次回は、中学校の今後のあり方ということを中心に、教育水準の維持ができなくなった場合の一定の基準について議論したいと思います。

## ４．閉会

**水本会長**

これをもちまして、第３回河内長野市学校教育のあり方検討委員会を終わります。皆さまありがとうございました。